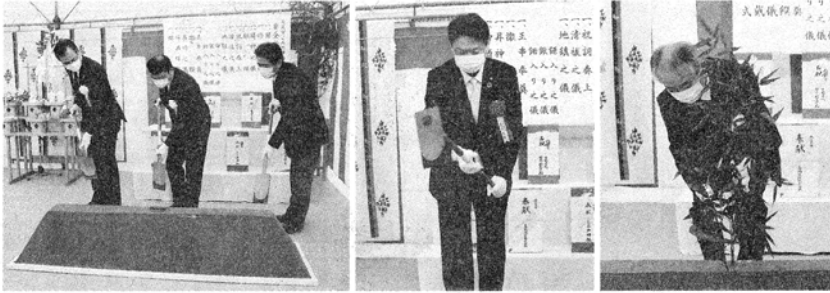


【株中央設計技術研究所の笠松社長が出席

環境配慮型 23年4月稼働へ 七尾市 ごみ処理施設が起工



鎌入れする笠松社長、鎌入れする茶谷社長、鎌入れする施工業者3社の代表(右から)=7日

七尾市のごみ処理施設建設工事の起工式は7日、同市吉田町の建設予定地で行われ、関係者26人が環境配慮型の設備を備えた新施設の着工を祝った。23年4月の稼働開始を目指す。

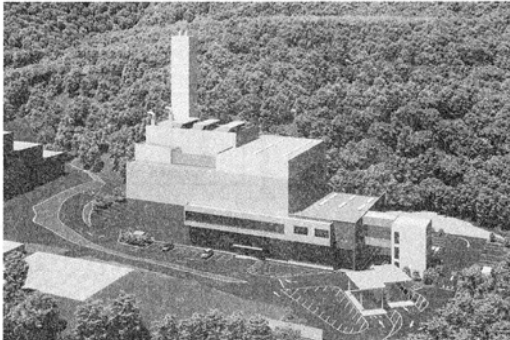
式で茶谷義隆市長は「施設的设计・施工を担う荏原・真柄・戸田組特定建設工事共同企業体には、持つ技術と抱負な経験を存分に発揮し、22年度末の完成に向けて順調に建設されることを大いに期待している」とあいさつした。杉本栄蔵中能登町長、和田内幸三、清水真一、岡野定隆志の3県議、杉木勉市議会議員、作間七郎町議会議員が順に祝辞を述べた。

柄建設の真柄卓司社長、戸田組の戸田充社長が3氏が鎌入れするなどして工事の無事故・無災害を祈念した。ごみ処理施設は、志賀町にある、み固形化燃料(RDF)焼却施設「石川北部RDFセンター」が22年度末で事業終了することに伴い、ななかりサイクルセンターの旧第1衛生処理場跡地に整備される。工場棟・管理棟の建設規模はSRC造地下1階、地上4階建て延べ約4330平方メートル。建物には自然環境に調和した色彩の外観とし、煙突の高さは地上59メートル。計量棟(S造平屋建て延べ約95平方メートル)も設ける。

# 環境配慮型、23年4月稼働へ

## 七尾市 ごみ処理施設が起工

式に先立ち行われた安全祈願祭では、基本設計・施工監理を担当する中央設計技術研究所の笠松英昭社長が鎌入れ、茶谷市長が鎌入れ、荏原環境プラントの三好敏久取締役、真



七尾市ごみ処理施設の完成イメージ

ツク類も受け入れる。環境負荷の軽減や省エネ対策として、余熱をロードヒーティングや冷暖房、給湯に利用するほか、有害物質を最大限除去する排ガス処理設備などを導入する。22年10月から試運転を開始し、本格運用に備える。

施設の整備・運営事業者については、DBO(設計・建設・運営)方式を採用し、総合評価一般競争入札で選定した。実施設計を含めた工事費は70億4000万円。20年間の運営・維持管理業務の委託料は79億7500万円。